

環境・安全・持続可能性に対する取り組み

環境安全経営

日本化薬グループは、環境・安全・品質を経営の根幹の1つとして位置づけ、これらの分野でも知的資産の融合を図り、全社を挙げて環境安全経営の強化に取り組んできました。そして、21世紀を迎えた現在、企業は環境を重視するだけに留まらず、企業の社会的責任の遂行を果たし、持続可能な社会の実現に向けて取り組むことが重要であると考えています。

品質と環境の管理システム

顧客の満足度の向上を目的に、1995年から工場を中心に品質管理の国際規格であるISO9001の認証取得を開始し、その後、事業部を中心に研究から販売にいたる部門でグループ会社を含めて認証取得を進めてきました。現在、機能化学品事業の全部門、医薬事業の全部門、アグロ事業部、火薬事業部、精密化学品開発研究所でISO9001の認証を取得しています。グループ会社では、(株)ポラテクノ、招遠先進化工有限公司、化薬化工(無錫)有限公司などが認証を取得しています。また、セイフティシステムズ事業部関連では、米国の自動車メーカー3社がISO9001を基に独自の要求項目を折り込んで制定した品質管理システム規格であるQS9000の認証を取得しています。

環境管理については、レスポンシブル・ケアの活動をより効率的に推進するために、環境管理の国際規格であるISO14001の認証取得を進め、2002年5月期までに当社単体の全6工場での認証取得を完了し、グループ会社においても、インデット セーフティ システムズ a.s.や(株)ポラテクノが認証を取得しました。

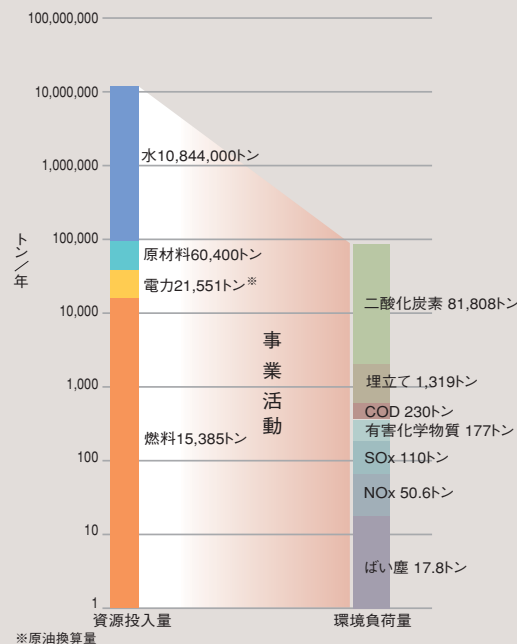
環境数値目標

日本化薬(単体)では以下の4項目に関して環境数値目標を定め、全社マスタープランに沿って活動を進めています。

1) 2006年5月期には、ジクロロメタンの環境への排出量を2000年5月期比で85%削減の10トン以下とする。2) 2011年5月期には、廃棄物発生量の増加を1997年5月期比でゼロに抑制する。3) 2011年5月期には、埋め立て廃棄物量を1997年5月期比で60%削減する。4) 2011年5月期には、原油換算エネルギー消費量およびエネルギー由来二酸化炭素排出量を1991年5月期比で8.6%削減する。5) 2011年5月期には、VOC(揮発性有機化学物質)の大気への排出量を2001年5月期比で50%(70トン)に削減する。

資源投入量と環境負荷量(単体)

2004年6月～2005年5月まで



環境会計

日本化薬(単体)では、環境保全に関するコストを把握し、2001年5月期から公表しています。また、2004年5月期からは、環境保全効果を把握しています。2005年5月期の環境保全に関する設備投資額は2億6,636万円、管理コストは14億8,558万円、環境保全効果は6,096万円となっています。

環境に優しい製品の開発

当社グループでは環境に配慮した環境調和型製品を積極的に開発しています。人や家畜に害を与えない天敵昆虫を利用した生物農薬事業、シックハウス防止など低公害・環境対応型の樹脂として幅広く利用されている光硬化型樹脂材料、新時代の環境対応型エポキシ樹脂、環境・安全対応型染料など人の健康と地球環境に対する負荷の少ない製品の開発を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。

社会とのかかわり

当社グループでは、地域との共存を重視して事業活動を行っています。全国の各事業場はそれぞれの属する地域と結んだ、公害防止、水質汚濁防止、緑の協定、震災時における災害等相互応援などの協定を重視して事業活動を行っています。